



ドリームベッド株式会社（7791）

2027年3月期第1四半期決算説明資料



2026年8月7日

1. 第1四半期の業績概要



1. 第1四半期の業績概要

売上高は、各販売経路とも伸長し、第1四半期ベースで過去最高となった。
一方、利益面では、新規出店に伴う先行投資、システム投資関連費用、及び売上高増加による物流費の増加、販促費の前倒し、さらに処遇改善を背景とした人的資本投資により減益となった。

損益計算書

	26/3月期 第1Q	27/3月期 第1Q	(百万円) 増減額	増減率	業績予想比進捗率	
					対第2Q 累計	対通期
売上高	2,850	3,003	152	5.3%	(5,845) 51.3%	(12,500) 24.0%
売上高総利益	1,495	1,575	80	5.4%	—	—
営業利益	203	139	△64	△31.5%	(290) 47.9%	(740) 18.7%
経常利益	196	132	△63	△32.3%	(275) 48.0%	(710) 18.5%
四半期純利益	131	86	△44	△34.2%	(200) 43.0%	(490) 17.5%
売上高総利益率	52.5%	52.5%	0.0%			
売上高営業利益率	7.1%	4.6%	△2.5%			
売上高経常利益率	6.8%	4.3%	△2.5%			
売上高純利益率	4.6%	2.9%	△1.7%			

()は期初業績予想

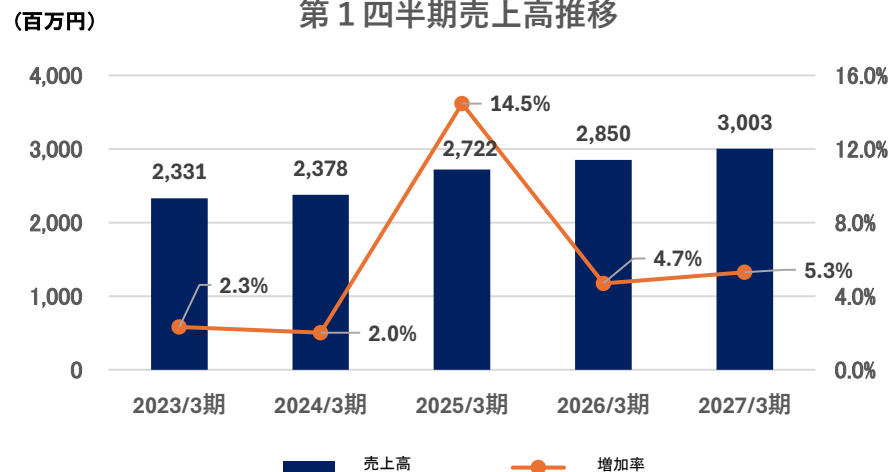
期初の業績予想
に変更なし

1. 第1四半期の業績概要

損益計算書

	26/3月期 第1Q	27/3月期 第1Q	増減額	増減率
売上高	2,850	3,003	152	5.3%
売上高総利益	1,495	1,575	80	5.4%
営業利益	203	139	△64	△31.5%
経常利益	196	132	△63	△32.3%
四半期純利益	131	86	△44	△34.2%

第1四半期売上高推移



販売経路別売上状況	26/3月期 第1Q	27/3月期 第1Q	増減額	増減率
家具販売店向け ※注	2,080	2,094	13	0.6%
商業施設向け	356	464	108	30.3%
ショップ ^o /ショールーム	384	399	14	3.6%
その他	29	44	15	51.7%
合計	2,850	3,003	152	5.3%

主な増減要因

マットレスの新ブランドKING KOIL(キングコイル)の販売が非常に好調であることに加え、「新横浜ギャラリー」の新設も奏功。

引き続きホテルの新設や、マットレス入替需要が旺盛。既存ブランドに加えKING KOILの新規採用も好調。

住空間全体のトータル提案強化により、ソファに加え、テーブル等の周辺家具の販売が好調。リーン・ロゼ梅田(5月開店)は好調な滑り出し。

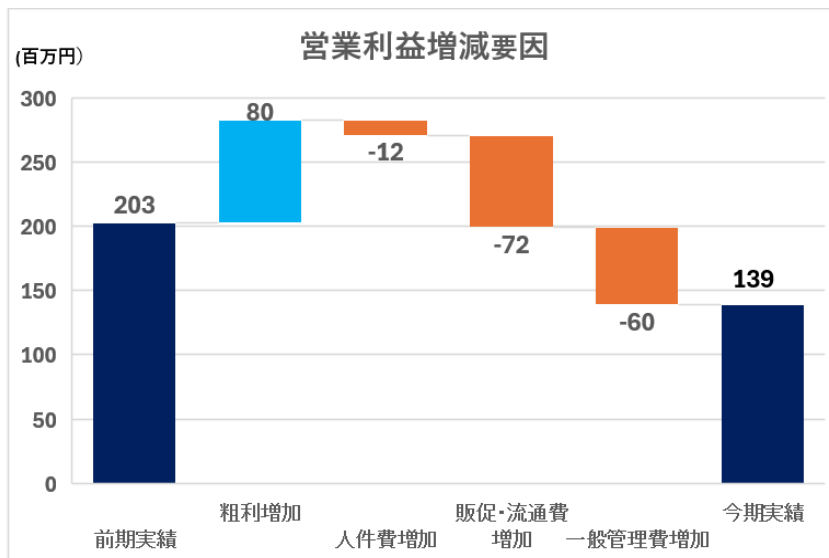
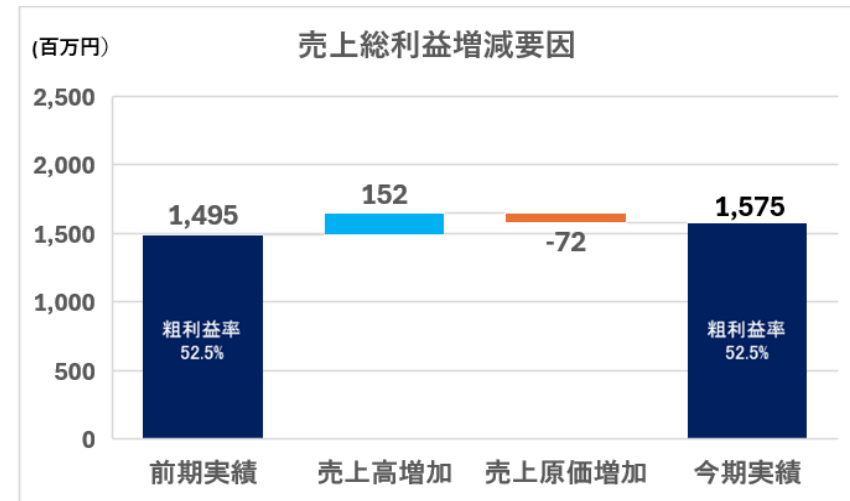
インドネシア、マレーシアへのOEM輸出を継続的に実施。ECも「ロゼフェアセール」の実施により好調に推移。

※注 ロゼEC売上は、従来「家具販売店向け」に計上していたが、僅少のため「その他」に含めて計上。

1. 第1四半期の業績概要

損益計算書

	26/3月期 第1Q	27/3月期 第1Q	(百万円) 増減額
売上高	2,850	3,003	152
売上高総利益	1,495	1,575	80
営業利益	203	139	△64
経常利益	196	132	△63
四半期純利益	131	86	△44



・中東情勢や円安によるコスト上昇圧力はあったものの、コスト削減や価格改定、高付加価値商品販売により粗利率は前年同水準になった。

・販促・流通費の増加は、リーン・ロゼ梅田出店関連経費の先行支出、及び物流コストの増加によるもの。

・一般管理費の増加は、人的資本投資やシステム更改投資にかかる減価償却費の発生によるもの。

1. 第1四半期の業績概要

貸借対照表

(百万円)				(百万円)			
資産の部	26/3月期 期末	27/3月期 1Q末	増減	負債・純資産の部	26/3月期 期末	27/3月期 1Q末	増減
現金及び現金同等物	649	668	19	営業債務	349	391	42
営業債権	2,475	2,103	△ 372	有利子負債	2,721	2,751	30
棚卸資産	1,280	1,440	160	その他	1,446	1,302	△ 144
その他	148	230	82	流動負債合計	4,517	4,446	△ 71
流動資産合計	4,554	4,442	△ 112	有利子負債	1,705	1,655	△ 50
有形固定資産	6,101	6,084	△ 17	その他	446	461	15
無形固定資産	267	251	△ 16	固定負債合計	2,151	2,116	△ 35
投資その他資産	589	671	82	負債合計	6,669	6,562	△ 107
固定資産合計	6,959	7,007	48	純資産合計	4,844	4,887	43
資産合計	11,513	11,449	△ 64	負債・純資産合計	11,513	11,449	△ 64
				自己資本比率	42.1%	42.7%	0.6%

資産の部 棚卸資産、投資その他資産の増加はあったが、営業債権の減少を主因として、資産の部は64百万円減少し11,449百万円。
 負債の部 その他流動負債(未払金・未払法人税等)の減少を主因として、負債の部は107百万円減少し6,562百万円。
 純資産の部 利益の積上げにより43百万円増加し4,887百万円。 この結果、自己資本比率は0.6%向上し42.7%。

2. 成長/基盤戦略の進捗



中期経営計画における成長戦略の進捗（深化と探索）

成長戦略

① 既存事業領域の深化（深堀して維持）

人口減少により市場の縮小が見込まれる中、新ブランドや製品の投入等で市場内シェアを拡大し、既存事業を維持。

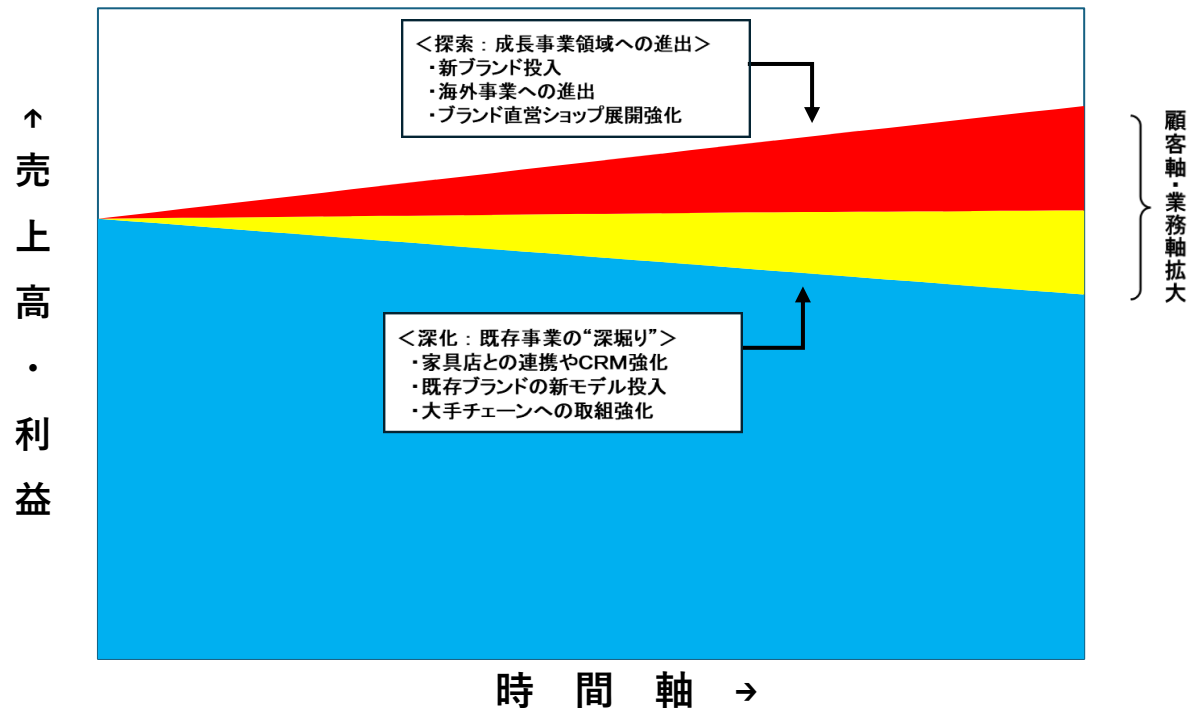
② 新規成長事業領域の探索（成長領域に資源投下）

好調なインバウンド市場に牽引される国内ホテル向け需要、成長著しい海外マーケット、好調なリーマン・ロゼ直販店等成長領域に資源投入。

③ バリューアップ（付加価値創造）のための効率化

成長性を示す売上だけでなく、価値創造の結果である利益額に重点を置き、原価増の抑制、固定費率の削減を目指す。

今後の事業成長イメージ



■佳ら久、はなをりキャンペーン

- ・毎年ラグジュアリーホテルにお納めしておりますマットレスを、一般顧客向けにも販売している人気のコラボレーション企画。
- ・今期は佳ら久、はなをりとの企画を実施。
- ・1Qでは当社計画を超過して推移。



 佳ら久
ORIX HOTELS & RESORTS

 はなをり
ORIX HOTELS & RESORTS

一流ホテルの寝心地をご自宅で

ブランド直営ショップの展開

■ リーン・ロゼ梅田店開設の状況

- ・2026年5月22日、西日本の旗艦店としてオープンし、非常に好調なスタートとなった。
- ・開店後の来場客数は計画を大幅に超過。 → 通常オープン時の想定来場客数の約1.7倍
- ・売上高(含受注高)も計画を大幅に超過。 → 通常オープン時の想定売上高の約2.7倍



海外事業の展開強化

■顧客軸の拡大

- ・ マットレスについて、インドネシアでのサータライセンス（大手家具メーカー）へのOEM供給につづき、マレーシアにおいても本格的輸出開始に向けローンチ。
今後、更にアジア市場への拡大を図る。

dream bed



輸出

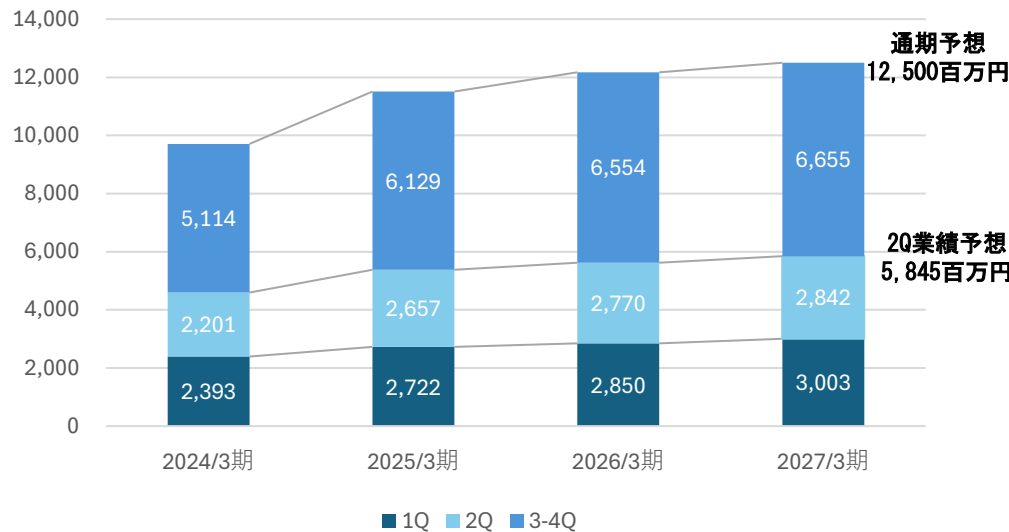
サータライセンス
(マレーシア)



ローンチ発表イベントの様子
(2026年7月9日)

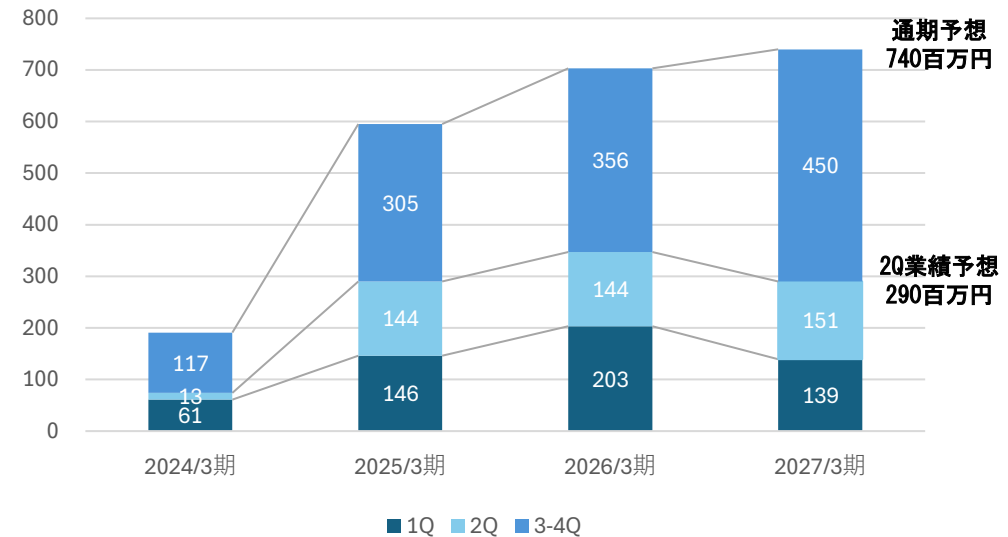
■第2四半期累計期(中間決算)の業績は当初予想通りを見込む → 売上高: 5,845百万円 営業利益: 290百万円 (増収・減益)

売上高推移



営業利益推移

単位: 百万円



※今期通期見通し

- ・ 上半期においては、円安や中東情勢による原材料費の上昇リスク、将来に向けた先行投資（新規出店関連費用、システム更新等）、売上高増加に伴う物流費の増加、人的資本投資の増加により、対前期比で減益の見通し。
- ・ 一方で、下半期においては、成長戦略の着実な執行、及び新規出店効果による売上高の増加、また前述の上半期における先行投資負担の解消から、通期では当初の計画通りに着地する見通し。



- ・本資料には、将来の業績に関する予想、計画、見通しなどの記述が含まれています。こうした記述は、将来の業績を保証するものではなく、リスクや不確実性を内包するものです。
- ・将来の業績は、主要市場の経済情報、製品需要の変動、為替相場の影響、国内外の各種規制、会計基準・慣行等の変更により、大幅に異なる可能性があることをご留意ください。
- ・本資料は情報の提供を目的として作成したものであり、本資料によって何らかの行動を勧誘するものではありません。

dream bed

(お問い合わせ先)
ドリームベッド株式会社 経営企画部
<https://www.dreambed.co.jp>
keiki@dreambed.co.jp